

薬学科の人材養成の目的

【学部・学科の人材養成の目的】

薬学部・薬学科では、社会生活を送るうえで必要となる知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、創造的思考力の修得のもとに、豊かな人間性と医療人としての高い倫理観、使命感を有し、生涯にわたって薬の専門家として、人の命と健康な生活を守るとともに、多職種と連携・協働して、地域社会の保健・医療・福祉の向上に寄与する次のような人材を養成する。

- ①基盤能力と共に薬剤師に必要な知識・技能・態度を有し、問題抽出及び解決のための論理的思考力、情報分析力、判断力をもって、患者・生活者にとって適切な薬物療法や薬学的管理を主体的に実践できる人材
- ②薬学研究に関する思考力と創造性を有し、生涯に渡って自己研鑽に努め、地域の医療、福祉、公衆衛生に広く貢献できる人材
- ③他職種の役割を理解し、互いの職能を活かしつつ専門知識に基づいて地域にある課題の解決に貢献できる人材

薬学科ディプロマ・ポリシー

薬学科は、「科学的市民」の育成という教育理念のもとに以下の資質や能力を身につけ、所定の授業科目を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に、学士（薬学）の学位を授与します。

1. コミュニケーション力

患者・生活者・多職種との間で必要とするコミュニケーション力を有している。

2. 課題発見解決力

他職種の役割を理解し、互いの職能を活かしつつ専門的な観点から課題を抽出する力、最先端の科学技術・情報を利活用する力、及び科学的根拠を基盤とした問題解決のための論理的思考・分析・判断力を有している。

3. 自らを律し、学び続ける力

生涯に渡って自己研鑽に努め、後進を育成する意識・技能・態度を有している。

4. 多様な視点から物事を捉え、異なる意見を理解する力

医療人として適切な倫理観を有し、社会における薬剤師の役割を理解したうえで、患者・生活者を全人的・総合的に捉える能力を有している。

5. 専門的知識・技能を修得し、実践する力

基盤能力と共に、薬剤師に必要な知識・技能・態度を修得し、科学的な視点から患者・生活者にとって適切な薬物療法や薬学的管理及び公衆衛生の向上を主体的に実践できる能力を有している。

6. 総合力

薬剤師としての役割を主体的に果たす能力とプロフェッショナリズムを有している。

薬学科カリキュラム・ポリシー

薬学科では、HUS スタンダード科目、薬学関連科目、薬学専門科目の有機的な結合によって、薬剤師としての専門能力と専攻分野を通じて学士力を培うことを目指したカリキュラムを設計します。このことを明確にするために、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性・関連性を体系的に理解できるようカリキュラム・ツリーを作成します。さらに、教員団はその組織的関与により、常にカリキュラムの点検評価、及び改善を行います。学修成果やカリキュラムの点検評価の方針をアセスメントプランとしてまとめています。

1. 基盤能力の修得に向けて①コミュニケーション力、②課題発見解決力、③自らを律し、学び続ける力、④多様な視点から物事を捉え、異なる意見を理解する力を養う HUS スタンダード科目を配置します。
2. 基盤能力と⑤専門的知識・技能・態度を修得し、実践する力、③自らを律し、学び続ける力及び⑥総合力を修得できるよう関連する科目を配置します。
3. 医療人としての倫理観、価値観を涵養するための科目を配置します。
4. ②課題発見解決力、⑤専門的知識・技能・態度を修得し、実践する力の育成に向けて、適切な薬物療法や薬学的管理を主体的に実践するために、最新かつ高度な知識及び技能を学ぶ科目を配置します。
5. ①コミュニケーション力及び④多様な視点から物事を捉え、医療現場における課題をチームとして対応する能力を身につけるために、グループ学習などのアクティブラーニングを導入します。
6. 多職種と連携し、地域医療に貢献する薬剤師を育成するため、①コミュニケーション力及び④多様な視点から物事を捉える力を醸成する科目として、多職種連携教育及び地域での体験型実習を配置します。
7. 各授業科目の成績評価については、成績評価ガイドラインに則り、厳格かつ公正に行います。
8. 学生の学修成果については、アセスメントプランに定めた方法及び収集した情報に則り、評価します。

薬学科 アドミッション・ポリシー

① 基本方針

チーム医療、地域医療、在宅医療など、医療現場で求められる薬剤師の役割は、今後ますます重要になっていきます。将来、薬剤師として活躍するためには、「どのような薬剤師になりたいのか」を明確にイメージし、目標達成に向かって学んでいくことが大切です。薬学科では、薬剤師に必要な知識・技能・態度、豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有する「医療の現場で活躍する薬物療法の専門家」になるための教育を行い、地域社会の保健・医療・福祉の向上に寄与する人材を育成します。

そのために、以下の資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

② 求める人材像と学力の3要素

求める人材像		知識 技能	思考力 判断力 表現力	主体性 多様性 協働性
薬剤師になることを強く希望する人	→	△	○	◎
人々の健康を大切にし、地域医療への貢献を志す人	→	△	○	◎
薬学を学ぶために必要な基礎学力を有し、高い勉学意欲のある人	→	◎	○	△
ルールを守り、協調性と思いやりをもって行動することができる人	→	△	◎	○
良好な人間関係を築くために必要なコミュニケーション能力のある人	→	◎	○	△

③ 学力の3要素と求める多元的な評価

学力の3要素								
知識・技能	→	学力試験	調査書	発表	推薦書	面接	口頭試問	
思考力・判断力・表現力	→	学力試験	調査書	発表	課題提出	面接		
主体性・多様性・協働性	→	推薦書	面接	自己推薦書				

④ 入学者選抜方法における評価の比重

入学者選抜方法		学力試験	調査書	発表	課題提出	推薦書	面接	自己 推薦書	口頭 試問
総合型選抜	→	△	－	◎	－	－	○	△	－
学校推薦型選抜(系列校)	→	－	○	－	○	○	◎	－	△
学校推薦型選抜(指定校)	→	－	○	－	－	○	◎	○	△
学校推薦型選抜(公募)	→	○	△	－	－	○	◎	○	－
自己推薦型選抜	→	○	△	－	－	－	◎	○	－
一般選抜[前期・後期学力型]	→	◎	－	－	－	－	－	－	－
一般選抜[後期総合評価型]	→	◎	△	－	－	－	○	－	－
一般選抜(共通テスト利用選抜)	→	◎	－	－	－	－	－	－	－
外国人留学生選抜	→	○	－	－	－	－	◎	－	－

⑤ 入学前に習得すべき内容・水準

- ・社会、医療における諸問題を解決するために必要な幅広い分野の基礎知識を習得していること。
- ・高等学校等において、明確な目的意識を持って主体的に学ぶ姿勢を経験していること。
- ・薬の構造や性質、作用機序、体内動態などについて理解するための基本的な科学力を有していること。
- ・薬学を中心とする学士課程教育を学ぶための必要な基礎学力(理科、数学、情報、外国語、国語)を有するとともに、自分の考え、意見やさまざまな情報を相手にわかりやすく正確に伝えるためのコミュニケーション能力を身につけていること。

※記号(◎, ○, △)は重要度の順序を表しています。